

スポーツ文化フォーラム Session 16

アーティスト/音楽プロデューサー

VERBAL 氏



by
VERBAL

スポーツとは
夢へのポータルである。

スポーツは文化である

スポーツドクターとして、
「スポーツは文化である」と
世の中に伝えたいと思っています。

文化にはスポーツもあり芸術もあり、音楽もある。
人間の心の豊かさを作る活動すべてが文化なのです。
スポーツの文化的価値は、
医療性、芸術性、コミュニケーション性、教育性、
この4つであることに行き着きます。
人はこの4つがないと、人間らしく生きていけません。

スポーツの医療性によって**元気**を、
芸術性によって**感動**を、
コミュニケーション性によって**仲間**を、
教育性によって**成長**を。

「スポーツは文化」と言える国にすることが、
私の志でありミッションの1つでもあります。

辻 今日のゲストはバーバルさんです。3年前、初めてお会いした時はギプスをされていましたよね。

バーバル 2016年の年末に事故で肋骨を8本折って入院しました。半年ほど入院予定だったのですが、暇すぎて新しいことに飢えていて、リハビリに通うことを条件に退院させてもらつたのです。そんな時、辻先生と出会つてフローについてのお話を伺い、すごく人生が変わりました。

フローでいること

バーバル 辻先生から、夢に向かって突っ走るためにメンタルで強くなるテクニックを教えていただきました。当時、後遺症の不安などいろいろ頭によぎりましたが、とりあえず前へ進む勇気とたくさんパワーをいただきました

辻 バーバルさんは音楽の他にもマルチな活動をされていますが、とらわれずいろいろなものに挑戦したり、うまくいかない時も揺らがず前に進んだりする感覚は、私のフローの概念「揺らがずとらわれず」そのものですね。多くの人はとらわれてしまつて新しいことができなかつたり、うまくいかないと揺らいで落ち込んだりしてしまいますが、バーバルさんはそんなことはないのですか？

バーバル 僕が辻先生から学んだことを自分なりに解釈すると、フローって陰と陽だと思うのです。音楽ってインスピレーションが大事で、感情がないと作れません。ただ、感情的な気分だけでやると、「今日は面倒だな、やめよ。」と揺らいでしまう。ではドライに、やりたくないでもやるというのも方法ですが、クリエイティブなものつて生モノなので、10曲作つたら10曲一緒になるわけではありません。

「多様性」とは

辻 今回のテーマは「多様性と表現」なのですが、多様性に関しての考えを聞かせてもらえますか。バーバルさんつてダイバシティの権化みたいな人で、あらゆる人と垣根を越えて繋がつていらっしゃいますが、大事にしていることや、今の世の中に対してもうことなどがあれば。

バーバル とても印象的な言葉があります。“You can't change others, but you can change yourself.” 「周りは変えられないけど、自分は変えられる。」という意味です。これを聞いた時は衝撃的でした。それで、思い通りにならずに「何でいつもある人は！」と思いつかだつたのですが、外的なことつてコントロールできないじやないですか。それなら自分を変えてみよう、

と試してみたのです。

辻 それはいつ頃の話ですか？

バーバル M.H. としてデビューしたて

の20年ほど前の話です。普通の会社と違
いルールがあるようでない特殊な音楽業
界で、自分が普通だと思っていたことが
できずに裏切られた気持ちになることが
重なっていました。試してみると、意外と
環境って変わるものだと思いました。す
ごく簡単な例ですが、相手の携帯電話の
電波が悪くても相手のせいにはしなくな
りました。すると話が円滑になり、一度も
こじれなくなりました。

辻 自分と他者の最高の多様性の原理で
すね。他者のせいにするのではなく自分
にフォーカスする。どうしても僕らは国
籍や年齢、性別や業界などあらゆるもの
でカテゴライズしがちです。日本人だか
ら、体育会だから、女子だから、と。バーバ
ルさんには、そういうカテゴライズはな
いのですか。また、何でもカテゴライズし
たがる世の中に対してもどう思います
か？

バーバル 僕の国籍は韓国ですが、日本
で生まれ、インターナショナルスクール
からアメリカの大学に行きました。韓国
には住んだことがありません。日本では
日本人じゃないし、韓国ではなぜ韓国語
喋れないのかと言われ、英語は喋れても
アメリカ人じゃない。どこに行つてもエ
イリアン（外国人）です。だからどこにい
つても順応できるようになつたのかもし
れません。

辻 なるほど。では「無理」というのは世
間で減つてきている感じはしますか？

仕事でよく感じるのは、日本では海外進
出に対して「それ無理だよ」と言いがちな
のですよね。デビュー当時はSNSなども
なく、誰かとフィードバックする場合
は事務所からアメリカのレコード会社に
連絡して、そこからアーティストのマネ
ージャー経由で連絡するものだと言われ
たので、「なぜアーティストと直で話した
らダメなのですか」と聞いたら、誰も答え
られなかつた。みんな自分でルール作つ
て日本のしきたりにカテゴライズするか
ら、ハーダルが高くなつてしまふのです。
でも、実際アメリカ人はアーティスト同
士で繋がればいいと思つてているのです
よ。曲が出来てしまえば後はそれが売れ
るか否の問題なので。最近は日本にもす
ごくクリエイティブな人が増えたと思いま
す。

バーバル 言うとダサいというのはある
かもしれません。これは僕が韓国人だか
ら言える冗談ですが、韓国人は北極でも
砂漠でもどこでも韓国料理かドライクリ

ーニングをやっているって、よく言うの

です。アメリカでも韓国語しか喋れずに

ビジネスしている人、結構多いのですよ。

現地の言葉が喋れなくてもグイグイ想い

を伝える、感受性豊かな人が多いのだと思

います。僕はハードウェア韓国人、ソフ

トウェア日本人ですが、日本人ももつと

グイグイ行けばいいのに思います。素

晴らしい文化があるのだから、もつと世

界にアピールするべきです。東京に来た

世界中の人達が、クリエイティブでかっこいい最高な街だと言います。m-flo が初めてロスに行つた時は、ステージに立つ

た瞬間地鳴りのような歓声があがり、ファンの方が日本語の曲を完コピして歌つてくれて感動しました。そうやって日本

のカルチャーを愛する人たちがいっぱいいるのだから、もつとグイグイ行つたれ！というのが僕の印象です。

辻 何でグイグイいきにくいのかな？僕

たちって。

バーバル もうすでに色々なことがあるので、その必要がなかつたのかもしません。ただ、これからは世界をシェアにいくことが大事だと思います。音楽も同じです。日本はなぜかレコード会社がロックしていますが、ストリーミングで世界中の人たちが聞けないのはもつたらないと思います。エジプトで尾崎豊をストリーミングで聴いてもいいじやないですか。

「表現」とは

辻 もう一つのテーマ「表現」についてお伺いします。世の中を感じとりながら、メッセージを色々な形で表現していく時に、表現者としてどんなことを大事にしていますか？

辻 世の中の人たちが今どんなことに興味がある、何が好きなのかという情報は、どのように得ていますか？僕の場合、若い人とたくさん喋るようにしています。

バーバル 昔は一方通行で、デビュー当

時は自分流のラップをしていました。タイミングが良かつたのだと思います。英語と日本語のミックスも新しかつたよう

で、「3人の多国籍なユニット」などと書かれて。「バイリンガルですか？」とよく

聞かれますが、僕は日本語も英語もよく考えないと話せません。何も考えないで喋れるのは英語と日本語のちゃんぽんな

んですよ。それが僕たちの言語であり表現だったのですが、当時それがたまたま受け入れられたのです。今は、どういうものが求められているのか、市場のことも

考えます。あとは自分たちが他のアーティストのライブで得た感動を、m-flo だったらどうやって伝えていくか研究しています。

年を取って頭が固くなるのは嫌なので、今の時代を生きる世代と喋ることは僕にとって財産です。

バーバル SNSで世の中のトレンドは常にチェックしています。新聞や雑誌も読んでいます。ポッドキャストも好きで、色々な人のパネルを聞いて情報収集しています。あとは辻先生と同じで、やはり若い人に会うとエネルギーをもらいますね。絶対に出掛けて損したことはないのでは、一日燃え尽きるまで、極力夜も出かけます。イベントに出かければ新しい出会いがあり、新しい情報が得られます。

辻 表現方法って色々あると思います

が、ファイーチャリングするときは相手からインスピレーションが沸くのですか？

バーバル 相手を見て「こういう歌入れたら面白いよな」と浮かぶ人とファイーチ

ヤーしていました。例えば、安室奈美恵さんとの『SUITE CHIC』という企画は、僕が安室さんの楽曲にラッパーとしてフィーチャリングさせていただいた時の雑談から始まりました。「私もっとR&Bみたいことしたいです」「じゃあやればいいじゃないですか！」みたいな僕、音楽業界のこと無知だったのに簡単に言つてしまい周りが慌てていたのですが、ご本人には興味を持つていただけて。「ブラックミュージックがやりたくても、今までのイメージが…」とおっしゃるので、当時僕が好きでよくやっていた、名前を変えてキャラ替えする方法を提案したのです。

スポーツとは

辻 恒例の色紙には「スポーツとは夢へのポータルである。」というお言葉をいたしました。これについて少し解説してもらえますか。

バーバル 実は、今回のLisaが復帰後初の3人揃ってのアルバムで、"ポータル"というのがホットなワードだつたので3人が、一緒にアルバム作ろうって交差したのがこの次元で、そこに存在している自分たちの音楽とは?というのがテーマでした。違う次元につながる扉を"ポータル"と表現したのです。スポーツで言うと、例えば海外の貧困地区の子でも、「サッカー選手になつて町全員を食わせてやる!」という思いがあれば、そこに向かつて突っ走れるじゃないですか。スポーツって、自分でも頂点を目指せると思わせてくれる、子供たちに夢を与えるものであり、ひとつ表現方法だと思います。夢を持つていれば、自分をその次元にもつていける。そこへワープできる"ポータル"という意味で、「スポーツとは夢へのポータルである。」と書かせていただきました。

辻 可能性が広がる感じがしますね。音楽もスポーツも“プレイ”するということで、共通していますよね。では最後に、会場の皆さんにメッセージをいただけますか？

バル先生から学んだフローという

のは自分の中で本当に貴重なものですが

揺らぎそぞにはなつても
ノロ一な状態で

前編 突き進んでいくハンブルを北上する

無理と言われても、僕は絶対無理なんて

ないと思っています。尊敬する成功者た

ちの話を聞いても、たいてい皆はじめは

苦戦しています。絶対に出口はあります！ないと言った瞬間になくなると思うので、そこは突き進んでいただけたらと思います。

「無理なんてない」、本当にそう思い



ます。無理を証明するより、できることを証明する方が簡単なのですよ。本当に無理と証明するのは至難の業。だけど、できることは1個探せばいいのだから。無理の中でも生きている人って、いつも溺れていると僕は思っています。できることを信じて歩んでいる方が地に足がついていますよね。

バルさん、今日は素晴らしいお話をありがとうございました。

二〇一九年十一月二十五日

VERBAL

アーティスト/音楽プロデューサー

20周年を迎えたm-floでの活動の他、超豪華ラップグループ TERIYAKI BOYZ®、クリエイティブユニット HONESTBOYZ®のメンバーとしても知られ、独自のコネクションを活かし数多くのアーティストとコラボレーション。Pharrell Williams、Kanye West、Afrojackなど海外のアーティストとも交流が深い。近年は、DJとしても飛躍を遂げ、そのスタイルはファッショニストからの注目も熱く、デザイナーの YOONと共に2008年にスタートしたファッショングラン AMBUSH®ではCEOを務めている。世界のファッショニングビジネスを中心とするオンラインニュースサイト“The Business of Fashion (BoF)”が発表する「ファッショニストを変える世界の500人」にVERBAL & YOONの2人が2015～2018年度、4年連続精選されるなど、その活躍の場は多岐にわたる。



2019年11月25日
スポーツ文化フォーラム
Session16
EDGEof

編集 株式会社エミネクロス
撮影 小野亜紀子
製作・発行
株式会社エミネクロス

スポーツ文化フォーラムとは

スポーツや文化、人生などについて
より豊かな毎日を送るヒントや気づきを
多方面でご活躍される文化人をゲストにお迎えし
スポーツドクターと対談するイベントです。

<http://www.doctor-tsiji.com/>

